

【寄せられた感想(抜粋)】

◆被爆体験伝承講話

○大阪市立中浜小学校（115名）平成30年7月4日

広島平和記念資料館にある資料を提示しながら、原爆の恐ろしさや被害の大きさをていねいに説明していただきました。資料は子どもたちのことも考えて写真よりも絵をたくさん使ってくださいました。被爆者の悲惨さがしっかりと伝わってくる内容でした。



○三重県伊賀市立上野東小学校（93名）平成30年9月11日

戦争孤児について、聞き取ったことを詳しくお話していただきました。テレビや各種資料では聞き取れない内容だったため、興味深いものでした。戦災孤児の年齢が子どもたちと近かったため、自分と重ねて考える子もいました。



○神奈川県寒川町立旭が丘中学校（207名）平成30年5月1日

1945年8月6日のあの日何が起こったのか、被害者の実情を生々しく話していただいて生徒たちの心に響きました。貴重な話をしていただき、広島への修学旅行につなげることができたと感じています。



○北海道北見市立小泉中学校（330名）平成30年7月11日

広島に原爆が投下されるまでの経緯等、原爆の概要についての説明があったことで、被爆体験者の伝承講話によって、当時の様子をより鮮明に想像することにつながり、戦争や原爆の恐ろしさを感じ、平和への意識をこれまで以上に高めることができました。



○山梨県南アルプス市若草中学校(450名)平成30年7月19日

パワーポイントを使っでの説明で、地図、写真、絵画等情報の共有がしやすい構成でしたので、聴講者全員に分かりやすい内容でした。真夏の体育館が会場ということで、生徒の集中力が途切れることが懸念されましたが、被爆体験者の被爆から現在に至るまで、また、被爆体験伝承者の活動についての詳細な説明も、終始、集中して聞いていたと思います。



○秋田大学教育文化学部（30名）平成30年7月26日

聴講した学生の最も多かった感想は、これから教師を目指すものとして子ども達にしっかりと伝えていきたい、一緒に考えていきたいという内容でした。



◆被爆体験記朗読会

○石川県七尾市立小丸山小学校（370名）平成30年8月6日

体験記、原爆詩ともに、臨場感のある表現が多く、どの作品も印象的でした。中でも、「ヒロシマの空」は当時の情景や執筆者の林幸子さんの悲痛な思いが、ひしひしと伝わり、心が苦しくなると同時に、平和の尊さを考えさせられました。



○大分県別府市立南立石小学校（400名）平成30年12月7日

優しく落ち着いた口調でお話いただき、お二人の話されることに、児童はぐっと引きつけられていました。特に高学年は自分でも原爆詩の朗読をしてみたいと思う児童が多くいました。貴重な体験を無駄にしたいくないと思ったのではないかと思います。



○三重県津市立一身田中学校国児分校（28名）平成30年8月1日

切なかった。今では考えられないような生活をしていたのだと感じました。虫や雑草などを食べるなんて考えられません。自然災害は防ぐことが難しいけれど、人によって引き起こされる戦争などは防ぐことが可能だと思います。そのためにも戦争の悲惨さを知り、知識を深めることで戦争は絶対にしてはいけないものだと感じると思います。そして、感じたことを自分の中で止めておかずいろいろな人へ伝えていくことで戦争は起こらないと思います。

今思えば僕たちは平和な状態にあります。この平和をずっとこの先忘れずにこれから暮らしていきたいと思います。(生徒の感想より抜粋)



○東京都神津島村立神津中学校（84名）平成30年10月27日

臨場感があり、生徒達にもわかりやすく、伝わりやすい内容でした。生徒の感想からも、「心」に伝わってきた、という内容が多く見られ、改めて平和の大切さを皆で考えさせられる機会となりました。



○青森県立野辺地高等学校（100名）平成30年6月13日

詩の内容は、ともすれば学校での講演では敬遠されがちな直接的な表現が多かったが、それだけにリアリティのある情景を描きやすかったように感じる。淡々と語られる現場の状況と、我々の想像の域を超える被爆者の感情が、朗読を通してずっしりと伝わってくるようで、とても良かったと感じている。



○京都府亀岡市役所（50名）平成30年7月30日

被爆者本人が記された体験記は、原爆投下直後の悲惨な情景、そして失われてゆく命を前に、何もできない絶望感など、混沌とした当時の様子、強い感情が織り交ざった内容だと感じた。原爆詩からはその短い言葉の中に、また、その行間に被爆者本人の考えられないほど多く複雑な感情が詰め込まれているのを感じた。

